

道路構造物管理実務者研修（橋梁初級Ⅰ）現地実習レポート

令和2年12月9日、関東地方整備局が管理する橋梁で点検の現場実習が行われ、関東道路メンテナンスセンターの職員が講師を務めました。

この実習は、国交省職員のみならず自治体職員も対象として関東地方整備局が主催した「道路構造物管理実務者研修（橋梁初級Ⅰ）」で、点検要領に基づく定期点検において現地で近接目視とそれを踏まえた健全性の診断を行うために必要な知識と技能の習得を目的としたものです。

現地実習は、4班に分けて行われました。

- ①下部工の損傷
- ②主桁のき裂
- ③床版のひび割れ
- ④桁端部の損傷

このうち下部工と桁端部について、関東道路メンテナンスセンターの職員が講師を務めました。

実際の橋の損傷を前に、①観察事実、②現状の推定、③原因の推定、④進行の可能性、⑤影響の推定、⑥措置方針を一連の流れで考えることの大切さを伝え、各項目の着眼点や考え方を説明しました。受講生もハンマーを用いた打音検査にて実際のうきの状態を確認したり、積極的に講師に質問する姿が見られ、スキルアップに一役買うことができました。



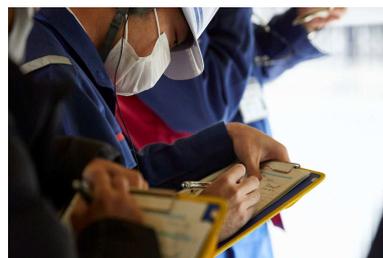
現地研修の全体説明



桁端部の損傷について説明



下部工の損傷について説明



熱心にメモを取る受講生



打音検査をする受講生